

災害

大水・台風

記録がないので古い災害ははっきりしない。明治二十五年七月一日はじめて多度津に一等測候所を置いて気象の観測をはじめた。以来香川県をおそった洪水、台風の強いもので、塩江町に関係したものは次のようである。

○明治二十九年八月三十日の台風 この台風は、鹿児島附近から東北へ進み、土佐沖を経て紀伊水道を通り抜け大阪、京都を横断して日本海に出たもので、安原村では二七〇・九ミリに達し、大洪水となった。

被害の状況は不明である。

○中徳尋常小学校の倒壊 明治三十二年八月二十六日の台風もまた甚しいものであった。最低気圧は同日午後九時に七二四・四ミリで風の強さは秒速五二・五メートルに達し、木を折り、家を倒し多数の死傷者を出した。県下の倒壊家は、一四、三二〇戸、死者三四〇名、傷者九七一一名。この時安原村中徳尋常小学校の校舎一棟が倒壊したが幸い死傷者はなかった。町内におけるその他の被害は不明である。

○明治四十三年五月十一日の台風 安原村安原下で雨量二二五・五ミリ、中心気圧九八〇ミリに達した。被害状況は不明である。

○上西字荒の山崩れ 大正元年九月二十二日から翌二十三日にわたる暴風雨は塩江町にとって最大の被害を与えた災害であった。四・五日前から曇天が続いていたが、二十一日午後二時ごろから降雨がはじまり、二十二日午前〇時

から一昼夜の間に一七三・六ミリに

および一番激しかった。同日午後八

時から九時までの一時間に二二・七

ミリに達した。内場池築造反対の陳

情書によると、九月二十一日は六六

ミリ、二十二日は三三三ミリとなっ

ている。風は同日午後四時から北東

に変わり、その後一時弱くなったが

十一時ごろから東に変わり気圧は七

二八ミリとなり烈風となった。県下

の死傷、行方不明は一七九名に達

し、流失家屋一九七戸、崩壊家屋八

四〇戸、浸水家屋九、五八九戸となつた。この台風で安原上西村荒の蛸山が崩れて、五戸が押し潰され、二六名

の死者を出した。当時の状況が蛸山崩壊記念碑に次のように記されている。

蛸山崩壊記念碑

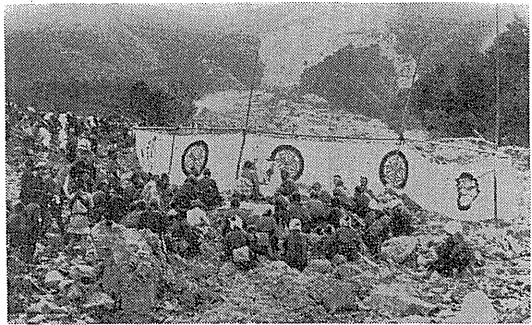
維（これ）時大正元年九月二十三日は如何なる凶日ぞ、連日降り頻る雨は刻一刻其の度を加へ、風伯猛り狂ふ

て轟々響々（とうとう）の響、物凄く人皆安き心もあらざりしが、其拂曉轟然たる大音響阿鼻叫喚（きょうかん）の悲

聲は嗚呼我蛸山の大崩落なりき、山麓に点在せし、五戸二十六名と幾多の家畜は無惨にも家屋と共に土中深く埋没し、教町の田畑は、汚泥砂礫と変じぬ。嗚呼何たる悲劇ぞ、事天聴に達し、おほけなくも救恤（きゅうじゅつ）



救出作業



たこ山崩れ追悼法会

の恩命に浴す、天恩優渥（ゆうあく）死者以て瞑（めい）すべきなり。
又時の郡長乾貞氏同志と課り汎く世の同情に訴へて弔祭建碑の資を贈られたるは深く感に堪へず。死屍発掘葬儀等に來つて従事せられし村人四百餘名、安原上東村、安原村の兩青年團等に川東村消防組の助力によって、漸く九日間を以上全部終了せしか、三名の死体遂に不明に了りしは甚遺憾とする所なり。今大正五年四月二十三日碑を建るに當り槩を刻して後人に似す。

藤本豊八撰

福井芳洲書

○大正七年七月十二日の台風 中心気圧九五九・四ミリ気象台はじまって二番目の記録である。町内でも山崩れ橋の流失など相当の被害があった。

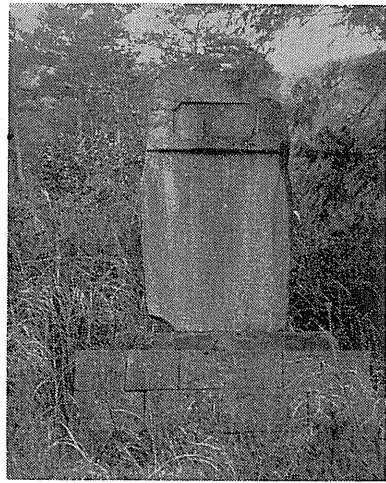
○昭和九年九月二十一日室戸台風 中心気圧九一一・九ミリ、風速毎秒四六メートル、世界最大である。香東川沿線では道路橋に相当の被害があった。

○昭和十三年九月四日の洪水 暴風雨が来襲し、県下の死傷者数一八名、家屋の倒壊四九戸、浸水家屋一、一〇九戸、香東川も大洪水となり、関にかかっていたガソリンカーの大鉄橋が流れて餘のように曲り、今の国道一九三号の道路も大損害をうけた。

○昭和三十四年九月二十六日—二十七日 伊勢湾台風

○昭和三十六年九月十五日—十六日 第二室戸台風 秒速二

二・五メートル、雨量四〇〇ミリ。



たこ山の崩壊記念碑

干ばつ

記録にややはっきり残っている町内の干ばつの状況は次のとおりである。

明治二十六年—六月二十三日から八月十五日まで雨なし。

明治四十二年—七月十三日から八月末日まで雨なし。

昭和十四年—雨量半年の半分。

昭和三十七年夏—雨少し。

昭和四十二年夏—雨少し。

元来塩江町は地形的に、大水が出ると橋の流失、山崩れによる道路の被害が多い。大正元年の大水では水が岩部釣橋の上を越え、民家の床上浸水が数戸あったほどである。その半面天然水を利用する山間地帯では、たびたび干ばつの害が起こった。香東川流域でも、水不足からよく「水けんか」の起こることも珍らしくなかったが、内場池ができてからそのようなことは全くなかった。昭和四十年ごろから補助を受けて山間部では畑地かんがい用の水槽を作るようになったが、規模が小さく大干ばつにはあまり効果がなかった。

雪害

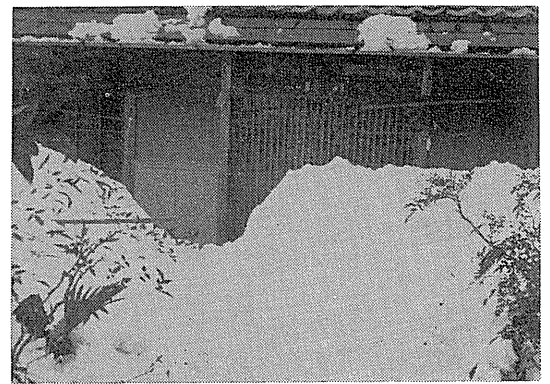
塩江町は地形的に県内で最も雪の多い地帯で、香川町から北では晴天であっても、町内では雪の降ることが多い。一月から三月ごろまで毎年雪が降る。明治以来記録および古老の記憶に残っているおもな大雪は次のようであ

る。

○明治四十年二月十一日の大雪 二月十日十一時ころから降り出した雪は翌十一日午後六時ごろまで降り続き、安原村で約四〇センチ、塩江から南では六〇センチ以上に達した。当日は丁度紀元節の祝日に当たっていたが、学校へ出席したものは殆んどなかったと伝えられている。

○昭和四十三年二月十五日の大雪 俗に「台湾坊主」といわれた低気圧のため、二月十五日夜明けから降り出した粉雪は一日中降り続き、未曾有の大雪となった。高松でも二〇センチの雪を見たが塩江町では、安原下の平地で五〇センチ、岩部で六〇センチ、上西の平地で七〇センチ、松尾、大屋敷、真名屋敷で約一メートルと記録破りの積雪をみた。町内各学校は十五日午前授業、十六日(金)、十七日(土)は臨時休校した。十八日の日曜日には各地区とも父兄部落総出の除雪作業によって、十九日から特別の生徒を除いて授業をはじめたが、東山地区は積雪ことに多く除雪作業困難のため十九日以後も引き続き休校、戸石分校は電話線が切れ、通信交通が絶えて全く孤立してしまった。

なおこの雪は水分を多く含んでいたため、重く家屋・樹木・電線に大きな被害を与えた。ことに東地部落の喜多養鶏場では、鶏舎(ビニール、トタン屋根)三棟が倒れ成鶏約八〇〇羽が生き埋となり、部落総出で救出作業を行なったが、死んだ鶏も多かった。さらに二十日夕刻再び雪が降り、平地で二〇センチ、上西方面で三〇センチ以上の積雪をみたので東山、西山、香山、樅川分校各校では二十一日、二十二日臨時休校とした。その他の学校も一〇%以上の欠席者があった。



大雪の状況 (昭和45年2月15日)